

## 川崎市内のヤトセスジジョウカイの記録

雛倉 正人\*

Records of *Athemus yato* (Takahashi) in Kawasaki City

Masato HINAKURA\*

ヤトセスジジョウカイ *Athemus yato* (Takahashi)は、高橋、1992により神奈川県湘南地方から記載された、湿地性のジョウカイボン類である。野外では、早春湿地周辺の草木に静止したり、飛翔する成虫を見ることが多いが、ときにカエデやフジの花に來ていることもある。他のジョウカイボン科甲虫と同じように、昆虫などの小動物を捕食する。なお、幼虫については未知である。本種は東日本の太平洋側を中心に分布しており、北限は青森県の平野部、南限は愛知県三河地方の山間部にあることが知られている。また、長野県を中心とする中部地方の本種の調査結果によれば、多くの産地では付近に水田があり、古くから農村と生存を共にしてきた生物であったが、比較的最近まで存在が知られぬまま、不連続的な分布を示すに至ったと推察されている(雛倉、2001)。

本種の典型的な生息地は、和名が示すように、東日本の言葉で谷戸と呼ばれる、谷地形の湧水を伴う湿地であり、このような場所は、ホトケドジョウやゲンジボタルの生息場所と重なっていることが多い。川崎市内では、川田ほか、2000により、生田緑地に生息することが報じられた。生田緑地では、「谷間の自然探勝路」や「ホタルの里」と呼ばれる木道がある谷筋で、4月頃成虫が観察される。筆者はさらに市内の3箇所を確認したので、ここに報告する。

本種の上翅の色彩には地域変異があり、黒地に橙黄色の筋が現れるものが基本であるが、産地によってどちらかの色斑が拡大して、全体が黒ずむか、黄色っぽくなる場合がある。前者は信州などの高冷地で、後者は関東の一部の産地で見られることが多い。川崎市内の個体はほとんど基本型であるが、生田緑地の個体に、黄色斑が肩のところだけに退縮し、黒っぽい個体が混じっていた。

### 採集記録および生息地の状況

麻生区黒川, 11. IV. 2001, 1♂, 雛倉正人採集(写真1).  
同所, 8. IV. 2004, 1♂, 雛倉正人採集.

谷戸奥の湿地に生息しており、個体数は比較的多い。  
多摩区生田緑地, 15. IV. 2001, 1♂, 雛倉正人採集(写真2).  
同所, 17. IV. 2004, 1♂1♀, 岩田臣生採集.

数は黒川より少ないが、木道のある谷筋で、発見以来安定して確認されている。

麻生区早野, 11. IV. 2001, 1♂, 雛倉正人採集(写真3).

数は比較的少ないが、ハンノキやスゲ類の自生する湿地で観察され、交尾中の個体も見られた。

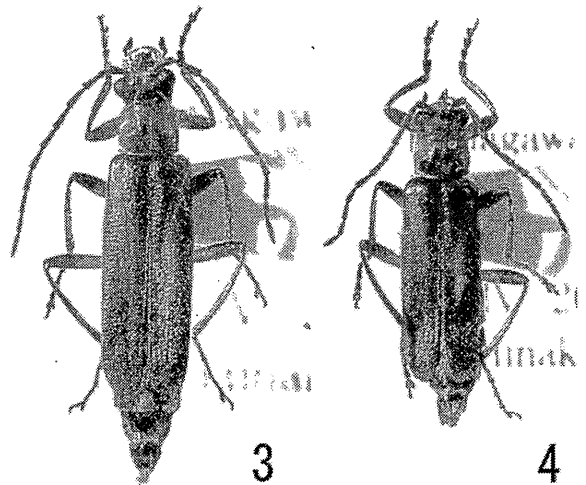
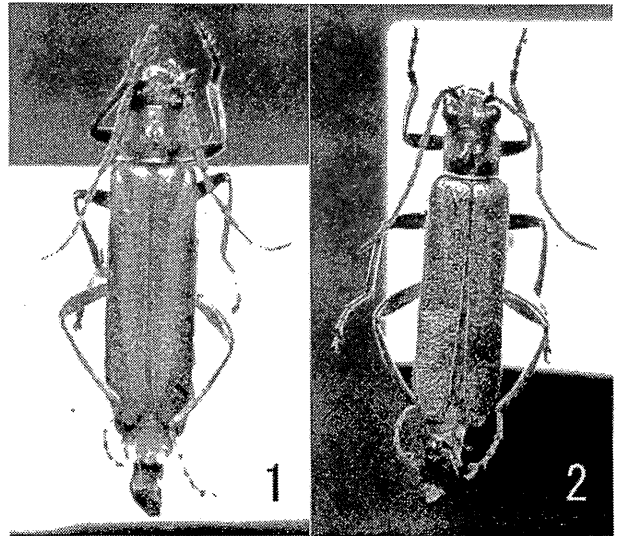
宮前区犬蔵, 14. IV. 2001, 1♂, 雛倉正人採集(写真4).

当地は宮前区に残る数少ない湿地であったが、工事により埋め立てられて地形が変わってしまい、現在は存在しない。本種の確認はこれ1頭のみ。同時に、シオヤトンボ成虫や、ゲンジボタル幼虫が確認された。

なお、川崎の近隣地域で、次のとおり筆者は本種を確認しているので、あわせて記録しておく。

横浜市緑区新治町, 18. IV. 1993, 1♂1♀, 雛倉正人採集

末筆ながら、記録を提供いただいたかわさき自然調査団の岩田臣生氏にお礼申し上げる。



川崎のヤトセスジジョウカイ

\* 特定非営利活動法人かわさき自然調査団

文献

鎌倉正人, 2001. 長野県とその周辺のヤトセスジジョウカイ -形態的特徴と生息環境について-. 伊那谷自然史論集 2, 47-53.

川田一之・岩田芳美・高橋小百合, 2000. 生田緑地の甲虫追加目録(1). 川崎市青少年科学館紀要(11), 42-44.  
高橋和弘, 1992. 神奈川県 of ジョウカイボン科. 神奈川虫報(100), 71-124.

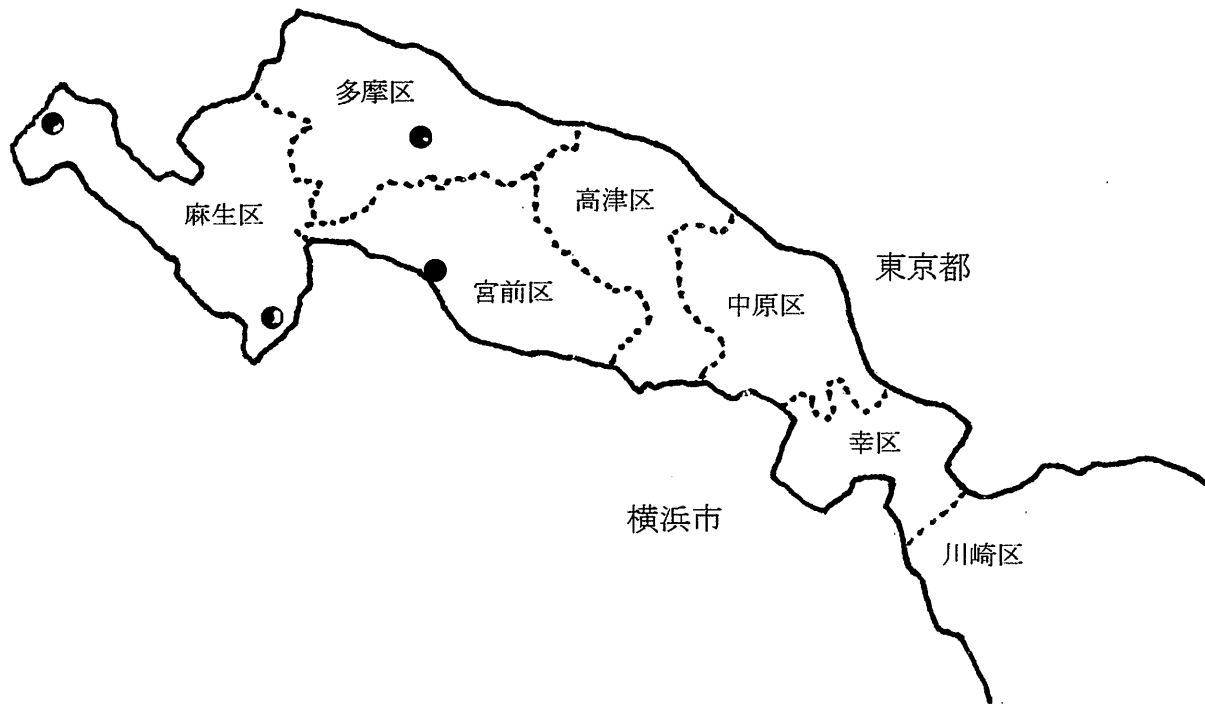


図 川崎市内のヤトセスジジョウカイの記録地